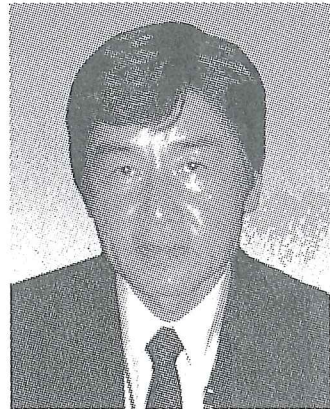


今年7月、創立から10周年を迎えたシクロケム。事業が成長軌道に乗り、同社のブランド力は食品、化粧品分野を中心に広まった。新たな一歩を踏み出すにあたり、シクロデキストリン(CD)の技術応用による製品を工業や環境分野などへと領域を拡大させることも、高齢化社会に対応した提案や素材のレパートリーを増やすなど多角的な取り組みを推進する。次の10年に向けた取り組みを寺尾啓二社長に聞いた。



シクロケム 寺尾 啓二 社長に聞く

▼これまでの10年間は、どのように歩んでこられましたでしょうか。

「食品分野中心に展開してきた。2002年7月に独ワッカーケミー社のスペシャリティ・フラインケミカル製品を取り扱う日本総代理店として当時、私を含め4人でスタートした。ワッカーケミーのCDを主軸に据え

シクロデキストリン(CD)を食品、化粧品分野中心に展開

▼これからの躍進テーマは、

「食品分野はもちろん推進するが、ビジネスとして事業体制ができていないので、これからは食品分野への領域も攻めていく。繊維加工、自動車用塗料、家庭用品、環境分野へとCDの応用分野を広げていく。とくに繊維加工向けには反応性のCDを開発し、繊維に固定化することができたので、スポーツ衣料品の臭いを除去するなどの目的で、大手スポーツメーカーに採用された。13年初めから事業化される予定だ。これまでの年間の売り上げ成長率は、平均27%。当初2億円だったのが、この10年で25億円になる。ただ次の10年間で同じ率で伸ばすことは難しいだろう。いま開発中

次期10年見据え領域拡大 工業、環境分野など攻略へ

「食品、化粧品分野からその周辺のさまざまな分野へとCDの可能性を広げること。新たな視点から開発を進める感性を常に磨くことが重要と考えている。具体例として、繊維以外にも匂いの問題へと対応していく。神戸の須磨海浜水族園と共同でいま進めているのが、CDにヨウ素を組み合わせた抗菌・消臭スプレー。低減化する技術を開発し、これをうまく活用してペンギン舎などへ活用展開する。動物園なども同じ問題を抱えているので、全国に広く利用してもらえる製品に仕上げたい」

「また、ニュージラノドのマヌカヘルスのマヌカハニーを取り扱い、日本で展開している。別の側面であるが、当社がCDと組み合わせた開発した技術をベースに、活性力が一段と高まる設計による『サイクロパワー』という製品に仕上げた。マヌカヘルスよりの市販体制が整った」

(聞き手＝高橋善治)

「食品分野はもちろん推進するが、ビジネスとして事業体制ができていないので、これからは食品分野への領域も攻めていく。繊維加工、自動車用塗料、家庭用品、環境分野へとCDの応用分野を広げていく。とくに繊維加工向けには反応性のCDを開発し、繊維に固定化することができたので、スポーツ衣料品の臭いを除去するなどの目的で、大手スポーツメーカーに採用された。13年初めから事業化される予定だ。これまでの年間の売り上げ成長率は、平均27%。当初2億円だったのが、この10年で25億円になる。ただ次の10年間で同じ率で伸ばすことは難しいだろう。いま開発中

「食品、化粧品分野からその周辺のさまざまな分野へとCDの可能性を広げること。新たな視点から開発を進める感性を常に磨くことが重要と考えている。具体例として、繊維以外にも匂いの問題へと対応していく。神戸の須磨海浜水族園と共同でいま進めているのが、CDにヨウ素を組み合わせた抗菌・消臭スプレー。低減化する技術を開発し、これをうまく活用してペンギン舎などへ活用展開する。動物園なども同じ問題を抱えているので、全国に広く利用してもらえる製品に仕上げたい」

「また、ニュージラノドのマヌカヘルスのマヌカハニーを取り扱い、日本で展開している。別の側面であるが、当社がCDと組み合わせた開発した技術をベースに、活性力が一段と高まる設計による『サイクロパワー』という製品に仕上げた。マヌカヘルスよりの市販体制が整った」

(聞き手＝高橋善治)